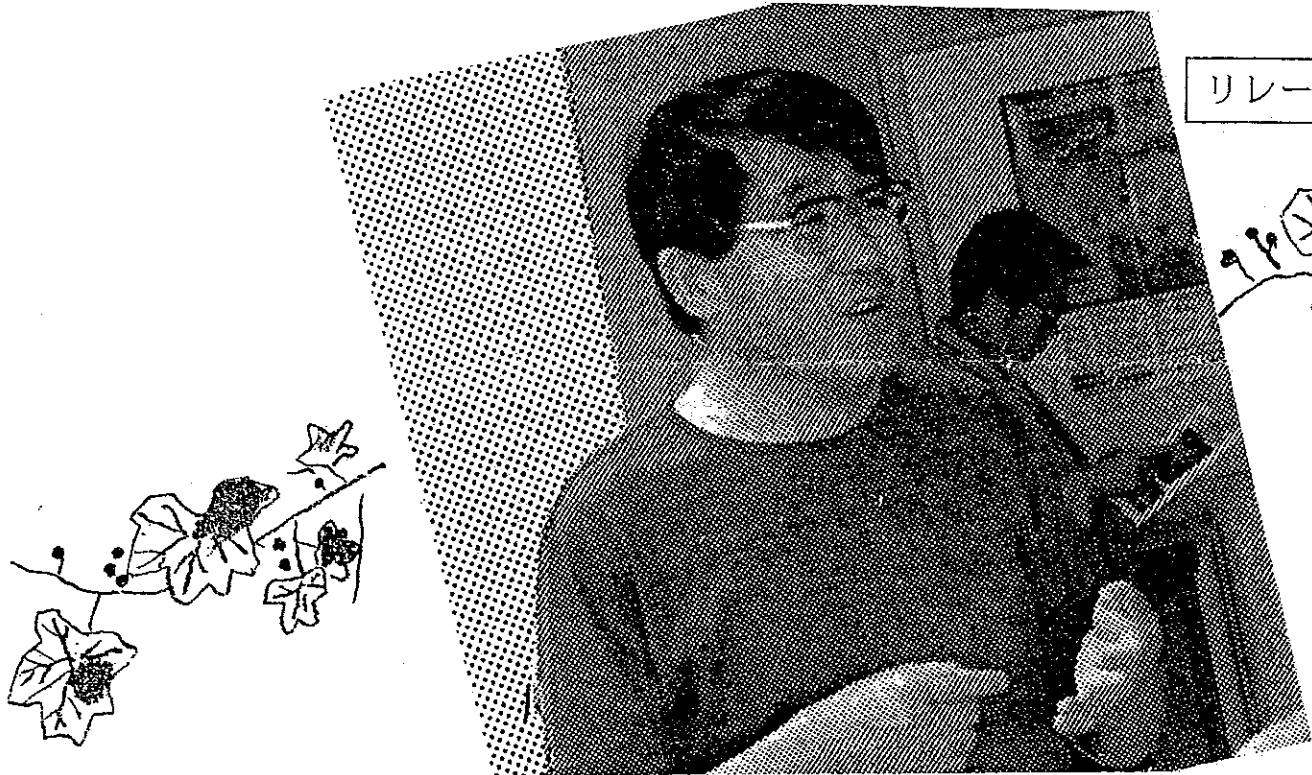


# めだかの学校だより

発行：おもしろ人立めだかの学校 住所：引佐町奥山1737-286

リレートーク ①



## 草を楽しんで薬と書く

つみくさ支配人 榊原 幸雄

「草を食べる?!冗談でしょ」といつていた私も今じゃ「つみくさ」の看板男、「田」の「るるぶ静岡」月刊誌、自然専門誌、タウン誌などいたるところに顔を出しています。

「健康と文化」をコンセプトに、自然と融和しながらの「ふれあいの里づくり」を目指しているので、自然志向派や音楽、芸能、美術、舞踊などの文化人も来店するようになってきました。

それに、ハンディーを持っている人も、お年寄りも積極的に受け入れ、車椅子で入れるスロープも、トイレもつくりました。子供連れがくれば指人形も作ってやったり。老人会には「こんぎつね」の語りや、一人芝居をやったりしています。

「これはドクダミ、ヨモギ、雪の下、月見草の花、ほうせんかの花の天婦羅です。抹茶塩でどうぞ!」などと、野草料理の説明をしています。草を楽しんで薬というとは昔の人はいいことを言ってくれました。つみくさはいわゆる薬を売っているのです。

私の役柄は支配人。支配人といっても、営業、企画、レジ、掃除、膳運び：と、なんでもします。お金のゆとり?今は超マイナス。人脈という財産は超蓄積!バランスはとれています。とはいってもね!

とか何とかいいながらも、静岡新聞社時代に味わえなかつた思いや夢が、ここでは広がるばかりです。引佐という町はいいところです。静岡の家をひき払って、引佐町へ家族ともども引っ越してきました。骨を埋めるつもり?まだわからないです。

横尾歌舞伎、川合渕の蛇おどり、ひよんどりなど、地元伝統芸能が継承され、少しづつですが人形劇の里らしくなってきました。

こんな調子で元気にやっています。お出かけ下さい。

〒431-23 引佐町奥山一七三七―二八六

いなさ自然休養村「つみくさ」

〇五三一五四三一〇三二二

# 学校スタート

引佐赤十字病院事務局長

伊藤 茂 男

浜松などからも多くの人たち

コラムは、出席確認に始まり3時限までが講話、第4時限午後8時からは給食の時間、分なのに対し、給食は何と2おり「行儀悪く、礼儀なし、」文字通り進歩自由夢(シンボ

限は、昨年、いなさ人形劇まり、新聞社を52才で退社し、たつみくさ支配人榊原幸雄氏題してのお話。第2時限は、ラジオパーソナリティとして活島市の石川美知子女史の「お続いて第3時限は、浜松いのボランティア活動家植田睦子なるお話」と三人三様の楽しい申しおくれたが、当日の校長学苑次長の平山豊氏、そして担当、用務員は当初この構想造屋の武井紀夫社長で、いずれしたもので任期も今日1日限り主か生徒か決まっていなのが、なのである。

らせは、昔なつかしい手振りのオツケ「レイ」そして、めだかと、小学生時代を思い出す雰囲この間の給食メニューは山野クサ、ヨモギ、アケビ、ツリガスベリヒユ等々十数種の山野ら、おひたし、酢物、あえもの

煮物などに調理されて食卓に並べられ、自前の山の実入りの焼酎も持ち込まれ、主食は地元おじさん連中手づくりの五平もちと手延そうめんと「ウーン、大満足」といった給食である。かくして給食の時間は延長々々を重ね、午前0時頃ようやく終了となった。参加者は多彩な顔ぶれで、行政関係者をはじめ、マスコミ、企業の社長、医師、商店主、農家、福祉関係、ミュージシャン、観光関係などいずれもおもしろ人らしいメンバー。中には、草笛日本一を自負する浜松フラワーパークの加茂さんも参加、美しい草笛で秋の歌を合唱したのは印象的であった。

話題がたくさんで書きつくせないが、私はこの学校を開いて、この学校のもつ究極の目的は何だろうと反省してみたが、どうもはっきりしたものが見つからない。しかし、次回が楽しみで待ち遠しい…となると、学校を継続することが目的なのかもしれないと思う。おもしろ人間が集まり、それぞれの生きざまやその人なりの情報の交流があれば、あとは生徒としての見きわめをすれば良いわけであるそしてそこに、人生の豊かさと価値観を見出せば何よりである。

ちなみに次回は12月の十五夜の日。校長先生は福祉関係の会社を経営しているライフケア浜松の美人社長、見野孝子女史。企画は全て見野校長先生の手腕にかかっている。どんな大きな夢を見ても、めだかは、めだか、そっとのぞいて見ていただきたいものである。世の紳士淑女のみなさん、おヒマで困っているようでしたら参加してみませんか。

あつけらかなとした楽天的なプラス志向が校風

# おもしろ人立めだかの学校

建学の精神は好奇心と遊び心そして挑戦意欲

「めだかの学校は、川の中、誰が生徒か先生か…」おなじみの童謡の一節である。

「誰が生徒か先生か…」時には先生になり、ある場所では生徒になる…そんな仲間づくりができないものかと以前から考えていたが、この程「おもしろ人立めだかの学校」が開校の運びとなった。

そもそもの事の起こりは、平成2年、ふるさと創生事業の地域版として「日本一の地域づくり推進事業」なるものを静岡県が打ち出し引佐町としては「町づくりは人づくり」を基本理念として生涯学習のひとつとして人づくりの組織化をはかろうと、めだかの学校構想をまとめることとなった。私も当時、その企画づくりに参加していたが、いざ具体的に活動を起こそうというところでストップしてしまった。理由はいろいろあげられたが、結論は「ユニークな計画であるが、行政では無理」ということであった。役所を去った私は何とかこの構想の実現をはかろうと、民間主導に切り替え、行政と調整をはかりながらこのたびようやくめだか達が明るい小川で泳ぐことの見通しとなった。

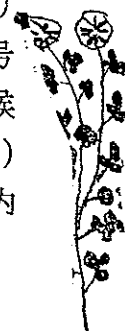
前置きが長くなってしまったが、かくしておもしろ人立めだかの学校は9月3日午後6時30分から「自然休養村センターつみくさ」を教室に、日謝(授業料)3,000円で開校した。この学校は、満月の夜に開くことにしており9月3日に決めたものの、当日は、台風13号が当地方へ上陸が予測されており最悪の天候にもかかわらず、参加者55人(内、女性6人)遠くは長野県飯田市、波合村をはじめ、県内

の三島・静岡・浜松などが参加した。

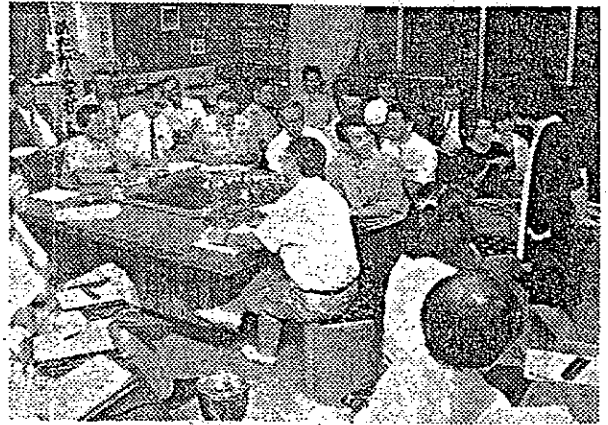
当日のカリキュラム第1時限から第3時限が質問の時間、午後8時1～4時限が15分なの時間も組まれており「行おしゃべり自由」文字道(ジウム)となった。

さて、第1時限は、つりがご縁となり、新引佐人となったつみの「私の人生」と題して食味研究家、ラジオパ躍されている三島市の「しゃれ料理」。続いての電話役員、ボラン女史の「元気になるお話し」を聞いた。申しお先生は、SBS学苑次教頭先生は私が担当、を提案した創造屋の武も当日選任されたもの次回は誰が先生か生徒めだかの学校なのであ

時限のお知らせは、振鈴がなり「キオツケ」学校々歌斉唱と、小学気である。又、この間草料理、ツユクサ、ミネニンジン、スベリヒ草が、てんぷら、おひ



# めだかの学校開校式 新聞に載る



## 通風筒

◇…へだれがくは長野県から約五十人が生徒か先生か参集。同夜は、榊原支配人と講師、受入、食味研究家石川味知子、講者が次々と入さん、浜松いのちの電話のれ代わり学び合植田睦子さんが教壇に立つるユニークな「めだかの学校」が三日夜、静岡県引佐郡引佐町奥山の自然休養村「つみくさ」(榊原幸雄支配人)で開校した。写真。有意義していた。

◇…さまでまな職業人が一堂に集い、十五分間の持ち時間、各人が「先生」となって経験談、人生観などをリレー式で語り、聴く同学校は、公立でも私立でもなく「おもしろ人立(じんりつ)」。

◇…開校式には、大型台風接近の折も郡内外をはじめ遠くは、公立でも私立でもなく「おもしろ人立(じんりつ)」。

平5年9月3日

中日新聞 朝刊

## 第2回めだかの学校は

### 12月3日(金)午後6時30分～

場所 いなさ自然休養村 野草料理「つみくさ」

PM6:20	予鈴
	校歌斉唱 めだかの学校のうた
6:30	新入生自己紹介
6:45	1時限目 社会:台所社会学 今村純子(県西部農林事務所指導普及課長)
7:15	2時限目 図画:美しい女性の描き方 近藤至弘(漫画家)
7:45	3時限目 体育:気と健康 渋谷直樹(渋谷脳神経外科クリニック院長) 渋谷和嘉子(クオリティ代表)
8:15	質問の時間
8:25	校長訓話
8:30	給食の時間 (献立)いも煮、とろろ汁、菜めし、麦めし、漬物、酒類、ジュース類

校長は見野孝子  
(ライフケア浜松)

教頭 山内秀彦  
(東海開発研究所)

用務員 鴨藤和彦  
(ビック・地域計画推進室長)